

◆【海員随想】BISKRA号航海記(23)③ 新木繁雄

8月18日 アルジェ接岸中

8時から揚げ荷が始まった。ラマダン中なのでゆっくりしたペースだ。

一昨日、最後にライフボートを船へ揚げた時、ボート吊り下げ用のダビットを曲げてしまった。どんな揚げ方をしたのか鉄材がグニャッと曲がっている。こんな状態でよくボートが揚がったものだ。人命に関することだけに、修理しないと外洋は走れない。アルジェで修理すると言っていた。保証工事ではないからこちらは気が軽い。

機関部はバンカー（燃料油）受け入れ。

午後3時、米、スシの子、ノリ、すのこなど持って、CNANの事務室へ行った。夕方皆が帰るとき一緒に、エルビア（駐在員の宿舎のある所）へ行くのに車に乗せてもらった。

アルジェリアでは1年間のビザが切れると、いったん国外へ出て書き換え、帰ってくることになる。別の会社の中園さんが、パリでビザの書き換えをして、今日帰ってきた。

アルジェリアではアルコールの持ち込みは1人1本と限られている。ビンの大きさには制限がないので、彼は4リットル入りのジョニーウォーカーを1本買ってきた。

宿舎への帰り道、市場で寿司用の魚を買い、握り寿司と巻き寿司を作った。渡辺さん、中園さんも交え、寿司パーティーで歓談した。

8月19日 アルジェ接岸中

朝早く仕事にかかっている割には、揚げ荷がはかどらない。1ギャングしかこないのに、本当に仕事をしているのは3人で、あとの7、8人は寝転んだり、座ったりで、さっぱり仕事をしない。荷役監督は、ラマダン中は無理にやれとは言わないようだ。全部揚げきるのに何日かかるか見当もつかない。

10時頃、ジェナウィー氏と小枝さんが来船。機関部関係のギャランティ・レポートについて打ち合わせ。12時終了。主気8番シリンダーの排気弁のスプリングが同じところばかり折れるが、何か原因があるのではないかと言うが、私には分からない。エンジンメーカーに問い合わせ、ジェナウィー氏に返事するように小枝さんに頼んだ。

FAXの状態を見ておきたいとジェナウィー氏が言うので、CNANから送信してもらい受信した。非常に鮮明な画像が撮れたので、満足して帰っていった。このFAXは、小枝さんがマドリッドの古野（FAXのメーカー）へ、訪船、調整を依頼してある。本船側からの要求で依頼したのだけれど、点検の結果、不良個所がないとなれば、費用はすべてCNAN持ちとなる。

16日、ボートを上げる際壊したボートダビットを修理屋が見に来たようだが、まだ仕事にはかかっていない。

今日、乗組員の大幅な交代があった。船長、無線士、一等機関士、二等機関士、三等機関士、これらはすべてユーゴスラビア人になった。